

(3) 現地調査手法の検討

予測手法の検討の結果，予測手法として三次元解析を選定したことから，特に地質や地下水の状況について，より詳細な情報の入手が必要と判断された。

これに基づいて，表 1.29の通り，現地調査手法の検討を行なった。

表 1.29 現地調査手法の検討内容

調査項目	調査項目と調査内容の検討結果
水理地質構造	○ 調査項目の設定根拠 事業地周辺における地層分布の詳細を把握するとともに，地下水流動の基礎となる水理地質特性を把握するために実施。 ○ 調査方法 φ66～φ116mm の機械ボーリングと各種の原位置試験や室内土質試験(物理試験・力学試験)を実施するとともに，確認された地下水頭毎を対象とした観測孔に仕上げた。 ○ 調査地点 地層・地下水分布を三次元的に把握するとともに，事後調査における地下水観測を想定し，事業計画に伴う既往ボーリング調査等が実施されていない，事業地の下流側を中心に設定した(計5箇所)。
地下水流動	○ 調査項目の設定根拠 各地層の水理特性(水理定数や地下水頭，流動区間の垂直分布や規模，地下水流動方向・流速等)を把握するために実施。 ○ 調査方法 機械ボーリングに伴う原位置試験として，現場透水試験，多点温度検層，地下水流向流速測定を実施。 ○ 調査地点 機械ボーリング地点(事業地下流側・計5箇所)
地下水変動	○ 調査項目の設定根拠 地下水位・湧水量の季節変動を含めた把握のために実施。 ○ 調査方法・調査地点 調査期間は1年間とし，湧水の湧水量，地下水観測孔・地域概況調査で把握された井戸の水位を対象とした，月1回の定期観測を行なった(地下水継続観測)。

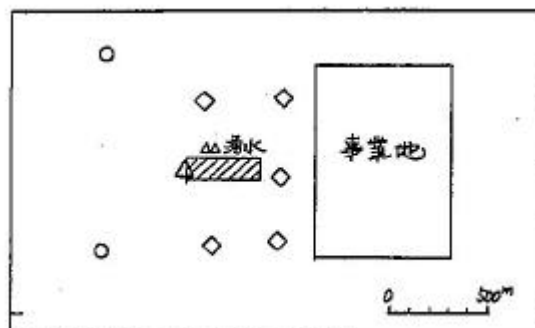


図 1.39 調査位置案内図

(: ボーリング調査地点， : 湧水量観測地点，○：既存井戸→地下水位観測地点)